

# にしあいづ物語100選 その94

文：矢部 征男

## 多くの新田開発を成し遂げた矢部理左衛門

奥川吉田集落西側に「勸業篤志碑」と呼ばれる碑が遺されています。およそ550文字からなるこの碑には、江戸時代初期の奥川の様子や矢部理左衛門による奥川開発の様子が記されています。それによりますと矢部理左衛門は、当時奥川組頭であった真ヶ沢村矢部家の嫡男として生まれ、幼少の頃から農耕に特段の興味をもち、広く開発する機会を伺っていました。当時は農民が困窮し、逃亡離散などにより田畑は荒れ地の多い状況でした。寛永20年(1643)、保科正之が会津藩主になると、この時とばかり現向原・井岡間の開墾を願い出、家督は弟に譲ってこの地に移り、開墾に着手して十有余年を経て、ついに吉田新田村を開いたのです。その後「郷頭」職になり各地での水田開発にあたり、越後(新潟県)や山形県各地への逃亡していた124人の村民を復籍させたといえます。開発はさらに進められ、その水田用水路は吉田組(現奥川と新郷の一部)だけでも41カ所に及び、総延長は約17,750間(約32km)、開田面積は約38haに及んだといえます。用水路距離の長さをみるとおよそ半分が300間以内で、最も長いのは真ヶ沢の「ふな山堰」で、1,650間(約3km)と記録されています。幅や深さは1.5尺(約50cm)程の規模であったようです。理左衛門の用水路建設技術は他の地区にまで知られており、遠くは山形県置賜にまで及んでいたといわれています。やがて郷頭職を嫡子に譲り、寛文7年(1667)、その生涯を閉じています。享年53歳でした。

なお、この碑は1892年(明治25)9月、福島県がその功績を讃え、広く周知を図るため建設したものとされています。

(参考文献 『西会津町史 第4巻(上)』)



▲ 勸業篤志碑

### お詫びと訂正

4月号27ページの戸籍の窓口、町の世帯数について2448世帯の誤りでした。お詫びして訂正します。

### 今月の表紙

今月は、4月7日に行われた令和7年度西会津小学校入学式から。ご入学・ご入園した皆さんおめでとうございました。

### 編集後記

4月から、行政組織の見直しにより、広報業務が企画情報課から総務課へ移管となりました。

私にとって、はじめての広報業務。編集作業や取材、カメラの使い方など、分からないことが沢山ありましたが、ひとまず、今月号が無事発行できたこととホッとひと安心です。良かった〜！

取材等にご協力いただいた皆さんへ感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。

今後も町民の皆さんにより良い広報紙を届けられるよう日々努力していきます。(三留)